

ソーシャルスキルトレーニングVR



User's
Voice
vol.6



FACE DUO

医療と福祉の架け橋に 新たな取り組みを

医療法人 藍 AKクリニック
院長 今村綾子 先生
心理士 矢野朝子 様

当院について

「医療がおこなう福祉」がコンセプト

地域や家庭で生活を続けていくためには、精神症状の改善だけではなく、様々なアセスメントが必要です。当院では、症状が改善する過程で自分と向き合い得たものを、今後の人生に役立てていただくお手伝いをするために、様々な福祉事業も展開をしています。患者さんが自分自身を高めていくために、その方にあった支援を提供できるよう常に進化しています。今後は、宿泊施設の提供も予定しています。

メディカルビル谷 II

4階：就労継続支援B型事業所フラップ

3階：医療法人藍 AKクリニック

2階：生活訓練および就労移行支援事業所COCOALA

1階：訪問看護ステーションこうこう/
訪問介護ヘルパーステーションCSCS

当ビルの紹介

導入のきっかけ

1. コミュニケーションのコアになる

FACEDUOでは、お手本となるようなコミュニケーションを学ぶことができます。コミュニケーションのコアになるという点が、集団精神療法で活用しやすいと感じ、導入を決めました。また、臨床の場でコミュニケーション能力を確かめるには時間がかかり、評価も難しいです。FACEDUOを使用した際の反応をみることで、治療状況を適切に捉えることができると思っています。患者様には、FACEDUOを活用してコミュニケーション能力を鍛えていくことで、新たな目標を見つけ、次はどのステップに進みたいかを明確にしてほしいと思っています。

2. スタッフの学びにつながる

FACEDUOは、進行ガイドなどの支援ツールが用意されており、活用がしやすいです。進行ガイドには、患者様への声掛けの工夫が記載されています。当院では、患者様に対して、手厚くサポートはさせていただくものの、患者様の自主性をそぐような過保護なサポートにならないよう心がけています。FACEDUOを使用することで、私たち自身も、患者様との適切な距離感や接遇を学ぶことができると期待しています。



集団精神療法について

スタッフからの提案をきっかけに

クリニックを運営するうえで、スタッフと横一列の関係性を大切にしており、スタッフからの意見や提案に耳を傾けるようにしています。今回の集団精神療法も、医療事務からの提案がきっかけではじめることにしました。集団精神療法は、人とのかかわりあいの中で、多くの学習効果を得ることができます。集団精神療法を行い、他者とのかかわりを学ぶことで、よりスムーズに地域や家庭に戻る準備ができると考えています。

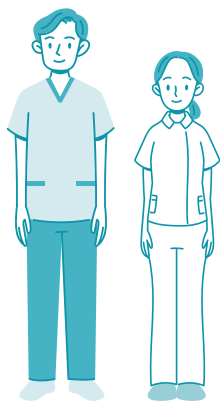


状況体験パート：こころの仕組み図

院長より

FACEDUOは、視覚からも情報が得られるため、理解が深まり、自分の思いや考えに気が付きやすいという点があります。そのため、幅広い疾患の方に対応可能です。テーマが豊富であることも、状況や疾患によらず使いやすい点です。また、ゴーグルをかけることで、ADHDの方なども集中してセッションに参加できるので、その点もメリットだと感じています。

ステップを踏んでFACEDUOを活用することで、スムーズに集団精神療法のプログラムの導入が可能に



当院では、下記の通り、利用者への案内、FACEDUOを用いた実施準備、個別プログラムでの経験を経て、集団精神療法のプログラムを実施できるようになりました。

具体的なテーマがコンテンツとして用意されているため、これから集団精神療法の導入を検討している施設においては、「導入のし易さ」が大きなメリットと感じられると考えます。

- 「医療と福祉をつなぎ、患者様のリハビリテーションや治療の悩みに寄り添える存在」が必要と考え、心理士を採用。
- 心理士の採用をきっかけに、新たな心理社会的療法の開始を検討した。
- 外来とのバランス、質の担保のために、4,5人程度の小グループ×3セッションでの集団精神療法を目指し、準備を開始した。

- 社会復帰が難しい主な要因としてコミュニケーション力の乏しさがある方や治療に前向きな方を対象とした。
- 「コミュニケーションに関するプログラムがあったらどう思う?」「プログラムに参加することで、社会における能力の向上、自身の苦手を知ることができるかもしれない」と繰り返し伝え、参加者を集めた。

スタッフの採用/ 枠組み検討開始

FACEDUO採用決定

患者様への声掛け



FACEDUO使用のメンバー体制を整える

- 円滑な運用には、医師自身がFACEDUOの使用に前向きであることに加え、以下2点が必要であった。
 - ①活用結果を多角的に分析するスタッフ（心理士等）
 - ②機械の管理者

個別でのFACEDUO使用開始

- 集団精神療法開始の準備として、カウンセリングの中で、個別でのFACEDUO使用をはじめた。
- 統合失調症の方以外にも、不安障害の方など、幅広い疾患を対象に実施。
- まずは機械になれていただくことを目標とした。

集団精神療法開始

- 個別でFACEDUOを使用したことで、不安感を解消し、スムーズに集団精神療法が開始できた。
- 回を重ねるごとに、積極的な発言が増えている。
- FACEDUOの活用で、状況の共有がスムーズになり、テーマの理解につながっている。



AKクリニックにおける集団精神療法でのFACEDUO活用事例

①状況体験パートの視聴

テーマを確認します。

②話し合い

理解を深めるために、テーマのポイントを皆で確認する他、日常生活において同様の経験があるかを話し合います。

③工夫発見パートの視聴

あくまで一つの方法として、工夫発見パートを視聴します。

④話し合い

テーマに関する工夫を話し合ったり、既に行っている工夫などを話し合います。意見がそれてしまう場合は、支援者が実生活への活用をイメージさせる声掛けを行うようにしています。

⑤実践練習パートの視聴

一つのストーリーとして、どのように課題を解決したかを確認します。支援者が先導しながら、各々声に出して練習をしてみます。

⑥まとめ



体験者の様子

自分から積極的に話すことが苦手で、施設利用も減っている方に、参加いただきました。初回は緊張した様子でしたが、徐々に自分自身の経験について語る様子が見られ、その場を和ませるような発言ができました。2回目以降は他のメンバーに自ら挨拶をしたり、自己紹介をして会話を始めたりする様子が見られています。笑顔が増え、活動的になってきました。施設の利用も増えており、良い変化が得られています。

スタッフの声

状況共有がスムーズにできるため、患者様から意見がきちんと出て、進捗がスムーズにできました。また、お話が苦手な方でも、FACEDUOを共通の話題として話すことができるため、抱えている悩みなどを聞き取りやすいです。没入感が高いため、心配していたVR酔いも少なく、驚きました。



詳しくは公式サイトにて

faceduo

検索

販売 Otsuka

開発・製造 JOLLY GOOD!